

# 證誠寺だより

2016年10月1日

vol. 39

発行所：浄土真宗本願寺派 證誠寺  
〒292-0831 木更津市富士見2-9-30  
発行責任者：隆 直浩  
TEL.0438-22-2018 FAX.0438-22-7573  
http://www.shojoji.net  
題字：隆 政子（前々坊守）



## 医療と仏教の協力を願う

前任職 隆克朗

私が大学の医学部を卒業した昭和32年の夏、医療の実地訓練の目的で、あるキリスト教の病院に住み込んで働かせていただいた。そこは元々イギリス人が結核の療養所として建てたもので、海に近い広々とした敷地の中央に教会があり、その周囲に木造平屋の病棟がいくつか並んでいた。毎朝8時半に日勤の職員が教会に集まり、通勤の若い牧師とクリスチャンの院長のお話を聞き、皆で賛美歌を歌ってから各部署に戻り、その日の仕事を始めた。病院にはもう一人60歳の老牧師が、私の部屋の隣に以前から長く住んでいた。彼はいつも笑顔で、優しく温かい人柄だった。毎日各病棟を次々に巡回し、患者さんの一人一人に親しく声をかけていた。時には患者さんの要望により、個室で長時間話し合ったり、患者さんの病状悪化などの緊急事態には夜中でもかけつけ、何か折ったり手伝ったりしていた。彼ほどの患者さんからも「おじいちゃん」と呼ばれ、信頼され慕われていた。病院という所は、目前に迫った死の恐怖におののく多くの患者さんがおり、暗く冷たい雰囲気になりがちだが、この病院は、宗教者の方々の尽力によって、明るく温かい雰囲気なのだと思う。

その後勤務医としていくつかの病院

を体験したが、このように宗教者が常勤して患者さんたちの心の支えになり、本当に安心して療養生活が送れる病院は、日本にはないのではないかと思った。仏教国である日本では、あのおじいちゃんの役目は、我々僧侶ではないかとも思った。

ある時大病院の一室で仲間の医師たちを前に、お寺の住職を継ぐために医師を辞めると話した。すぐに若い医師が立ち上がり、「すると私たちの後始末をする人になられるのですか」と、吐き出すように云った。日本の多くの医師は科学一辺倒で宗教には無知であり、僧侶は葬儀屋であるかと思っていないことが解った。そして日本の終末期医療は、欧米に比べてずいぶん遅れていることに気が付いた。真宗僧侶はいつでもどこでも、「死はみ仏がお浄土に引き取って下さることです。安心してお任せしましょう」と、患者さんやその家族に話せることを願っている。



## お寺の行事

10月

- 5日(水) 6日(木) 伝灯奉告法要千葉組団体参拝
- 7日(金) コーラス 13時半
- 12日(水) 踊り練習 10時半
- 13日(木) 門信徒勉強会 13時半
- 15日(土) 狸まつり 12時
- 21日(金) 定例法座 13時
- 25日(火) 佐藤知水師 グラウンドゴルフ 13時
- 26日(水) ゴルフ大会 ゴールド木更津
- 28日(金) コーラス 13時半

11月

- 6日(日) 報恩講コンサート 築地本願寺
- 9日(水) おみがき 9時
- 10日(木) 門信徒勉強会 13時半
- 11日(金) コーラス 13時半
- 20日(日) 報恩講 10時
- 25日(金) 季平博昭氏 コーラス 13時半
- 29日(火) グラウンドゴルフ大会 13時
- 未定 踊り練習

12月

- 3日(土) 第一連区仏壮大会 築地本願寺
- 8日(木) 成道会 10時
- 9日(金) 報恩講反省会 11時
- 15日(木) 門信徒勉強会 13時半
- 16日(金) 定例法座 13時
- 31日(土) 除夜会 23時
- 引き続き元旦会

■六月 定例法座

空梅雨の中の雨。空席が目立つ。

広島県の吉崎哲真師の御讀題は「如来の作願をたづぬれば 苦惱の有情を捨てずして 回向を首としたまひて 大悲心をば成就せり」

(『註釈版』p606)(有情⇨人間や動物。回向⇨回轉趣向の略。仏が成就された功德を有情に振り向けて下さる事。首⇨第一・真先)

# みんなで聴く私の法座



耳慣れない言葉で口にするのは難しい。お念仏は特にそう感じるもの。称えられない事を苦にするよりも聞こえる環境がある事を喜びたい。人は苦の始まりを喜びとし祝うもの。(結婚・誕生・進学・就職・持ち家等)人情は大切だと思いが苦を招いてしまう。苦の覚悟を必要とする。四苦八苦の最初の「生」は生まれてみたら私だった。何も望



吉崎 哲真 師

■七月 定例法座

めず生まれましてしまう。(老病死・愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦は読んずの如しなので略)五蘊盛苦の五蘊は生滅変化する次の五種の事。①色⇨肉体 ②受⇨感覚 ③想⇨概念 ④行⇨意志、記憶 ⑤識⇨識別。蘊は集合体の意。これらが盛んである為の苦。老病の逆の若さ、健康故に生ずる苦(飲み過ぎ)等。苦とも知らず楽を追求する私達。仏法流布の世に生まれたるは大いなる喜びなりの先人の言葉を紹介して結ばれた。



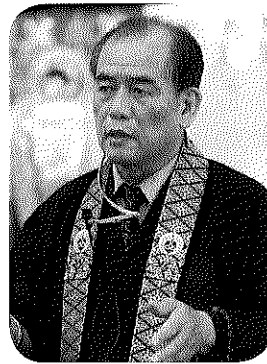
増田 廣樹 師

3回目、茨城県の増田廣樹師は、今回も相槌等反応を必ず示してねと。十方微塵世界の念仏の衆生をみそなはし 撰取して捨てざれば 阿弥陀となづけけたてまつる。(『註釈版』p571)を御讀題に頂かれその心を説かれた。微塵世界とは、僧侶の、子供の、スポーツの、趣味の、私の等各々の微細な塵の教程も無数にある世界。

その枠の中で本音と建前を使い分け

て生きている。如来様の前は建前不要。建前は賢者。本音は愚者。この世の愚者とは他と比較してのこと。如来様に比較は無し。絶対の愚者。煩惱に満ち満ちた迷いの凡夫、確かなものなど何一つ持ち得ない愚かな私と気付かされる事。その愚かな私を撰取して下さる如来様。撰は逃げる者を追いかけても抱きしめ取る。取は迎え取るの意。如来の大慈悲のお用き。すぐに評価してしまう私、という事は評価されている私である。評価全く無しに救い下さるのが、阿弥陀如来。私に到り届いて下さっている如来様だから、決して私は一人ぼっちではないと結ばれた。

■八月 孟蘭盆会



鶴山 信行 師

台風接近、夕方から大雨の予報。去年の孟蘭盆会に続いての横須賀市の鶴山信行師は人生の問題は、生活・善悪・生死が主、特に生死は誰にとつても一番だと。生を有、死は無と思いがち。しかし

『正信偈』に次の御文二つがある。「悉能摧破有无見」(註・全ての事を有る無しと見るのは邪見であるから、その見方は悉くよく碎き破るべき一筆者)

解脱の光輪きはもなし 光觸かふるものはみな 有無をはなるとのべたまふ 平等覚に帰命せよ(註・阿弥陀如来の光明は無限。その光に触れる者は皆、邪見から離れると『讚阿弥陀仏偈』(曇鸞作)に述べられていた。弥陀如来を拠としなさい一筆者)生まれたから死ぬ。生まれた瞬間から死と共にある一つ事。空しい人生とならぬ解決は拠が真実となる事しかない。

善悪について親鸞聖人は繪じてもって存知せざるなり『歎異抄』と。如来様の善悪のお心を知らない私を知るはずもない。自分の悪事は隠す。善事は自慢吹聴したがる。自是他非(私は正しい、他は悪)の善人ばかりだと謝らないから争いが絶えない。悪人ばかりだと(私が間違っていましたと素直に認め謝るから)円満。臨終の一念に至る迄煩惱・自己中の心は消えない。人間とは悲しい生き物と気付かせるのが宗教。この自分を知らされる事を仏様に遇うというのだと結ばれた。

# 第一連区門徒推進員

## 研修会 in 長野

6月4日(土)5日

門推1年生の伊藤(万)、河野、飯島、保泉、役員村井が参加しました。

「門徒推進員としての喜びと悩み」をテーマに内田正祥連研中央講師(5年前定例法座講師で来山)。

各寺の活動報告で證誠寺は全てに恵まれていると有難く思いました。当日はみどりの日で全国植樹祭に天皇、皇后両陛下がご臨席。外灯は歓迎旗と美しい生花に飾られ、通りは整然としていました。ホテルは両陛下とお隣同志。ダークスーツのSPが頼もしい限りでした。

翌日、親鸞聖人のご縁の深い善光寺へ。善光寺如来に松を捧げられたの故事により、本堂前西側に松の枝を手にした聖人の銅像について合掌。



仁王門東側、堂照坊縁起に、親鸞聖人の善光寺逗留時の宿坊との事。心豊かに次回新潟教区再会を約束して帰路に。  
保泉孝子

# 千葉組仏婦連盟みのり会 一日研修

6月14日

## 千葉県教育会館

スローガン「念仏に生かされるよろこびを行動へ」

24名参加しました。

高橋克子さんの司会で開会され、長倉伯博住職(鹿兒島・善福寺)の講題「温もりと笑顔の中で」ーベツドサイドに僧侶がいる風景ーを聴聞しました。患者には「頑張ってネ」ではなく「頑張ってるネ」と。「私残る人」ではなく「私も少し遅れて往く人、お浄土で会いましょう」心に深く染み入りました。

コーラスの発表は高林寺、浄土寺、宗真寺にコール證誠寺。私達は「弥陀の名号となへつつ」



「證誠寺の狸囃子」を歌い好評でした。実りある有意義な一日でした。皆様、是非今後ご参加下さいませ。  
吉村治子

# 六字の会総会

6月19日 鋸南町立中央公民館



総会では活発に意見や質問が出て予定時間をオーバーするほどでした。連研卒業者からなる組織ですが、今年度は役員が刷新され、新たなスタートを切る事になり、宗真寺の仲村会長は意欲を示されました。

研修会は「浄土真宗の仏事について」-葬儀・墓・仏壇-を講題として隆康浩法光寺住職(千葉組副組長)からお聞きしました。

# 全国布教大会

津村別院(北御堂)にて

7月13日  
14日



50有余年前、武田達誓総長の熱意に光照御門主の讃意で設立された布教使研鑽の会、全国布教同志会主催で開かれました。13日は8布教使(西仁子もその一人)によるお取次(ご法話)で尊いご縁を頂きました。

證誠寺から保泉孝子、村井道子、小早川澄子、山口幸江各氏

がはるばる大阪まで一緒下さり、お聴聞されました。実りある楽しい2日間でしたとのご感想に合掌するばかりです。

證誠寺にご出講の天岸浄園師(大会実行委員長兼翌日の研修会講師)、三玉順章師(H26報恩講)、九条孝義師(H28彼岸会)、加藤幸子師(5月)とも親しくお話できて嬉しい事でした。

来年は築地本願寺で6月20日・21日に開催。研修会講師は阿部信幾師。是非、是非お聴聞にとご案内致します。

# 中原寺(市川市)の納涼祭 7月31日

恒例のファミリーパーティが開催され、證誠寺からは菊地、星原、西村が参加しました。

1部では蓮如上人の人生劇場が披露され、会場は笑い

の渦に包まれました。2部のバーベキュー大会では浴衣姿の子供達や若いお母さんも参加し、大いに盛り上がりました。「お寺でこんな事も」と紹介しました。

# 広がるご縁へ...

8月4日

隆住職はじめ保泉・西村・星原（敬称略）と鈴木の5名で、證誠寺とは法縁廟でご縁の深い静岡市教覚寺さんを訪問致しました。今後の寺院発展の為に重要な課題である若い世代の人たちとのご縁作りに関して、先進的に取組まれている教覚寺さんに学ばせていただく目的の訪問です。主に南荘副住職よりご懇切な説明を受け、特に昨年創立百周年を迎えた「少年会」活動からは多くのヒントをいただくことができました。若い世代の人が結縁いただく寺院として、新たな教化の環境作りが急務であると改めて痛感した訪問となりました。



## 音御堂第8回東京教区 コーラスの集い

築地本願寺 6月27日

梅雨の晴れ間の暑い日、コーラス有志14名が参加しました。

午前中は南荘先生の指導の下リハーサル、13時から本番、9団体の発表、その後、全体で「弥陀の名号となえつつ」「娘たちよ」他7曲の仏教讃歌が本堂中に響き渡りました。初めて参加された方も感動されていました。み教えの詰まった讃歌を歌うコーラス證誠寺に是非入会をお勧めします。

村井道子



## 南葉会

西光寺にて 7月1日

南葉会とは、僧侶及び寺族の組織ですが、今回のテーマが『阿彌陀經』でしたので一般門徒にも門戸を開きました。保泉夫妻、菊池、山口、村井、西、星原、西村が出席しました。

浄土はあるのかなのか。浄土の絢爛たる相と恒河沙（ガンジス河の砂の数程無量）の諸仏がそれを讃える様を釈尊は問われないのに説かれたのは、浄土は私が往く処だからです。昼の星と言えましょう。この世の縁の尽きると同時に浄土に生まれて仏になる（往生即成仏）。人間に生まれ、仏縁に恵まれ、南無阿彌陀仏を頂く事こそ、私がこの世に生まれてきた意味と説かれました。今後も研修会は僧侶と門徒を分別せずにと願うところです。



## 第1連区ビハーク研修会

6月29日（水）～30日（木）

長野別院にて

東京教区から男女20名の参加でした。初日は中村仁一講師（医師・社会福祉老人ホーム同和園所長）の講義。生と死を見つめる「ビハーク」活動への願いでした。心に強く感じた事は①死には生き方。人は生きてきたように死ぬ。②それ迄の「生き方」、周囲への「関わり方」、医療の利用の仕方」が最後の場面に反映される。③点検・修正を繰り返しながら「今」を生きる事が大切。

2日目の①活動事例の報告 ②ビハーク活動のさらなる展開について。

普段の門徒活動が大事。それがないうまま、仏縁の薄い死を目前にした人に関わって何が出来るか。私は門徒。私にできる事をさせて頂くだけ。私は「生と死を見つめる」をビハーク活動の一環として考えています。

合掌 河野美春

## 手作り講習会



狸まつり仏婦会売店向け商品タオルハンガーを長谷川圭子さんのご指導で、7月19日（火）、9月2日（金）に作りました。会員が楽しく、奉仕の心を込めて完成させました。お求め頂きますようよろしくご案内致します。

## 報恩講法要のご案内

秋冷の季節を迎え、皆さまには法味愛樂の御事と存じます。さて、本年の報恩講法要を左記の通り行いますので、お誘い合わせの上、是非お参り下さいますようお願い申し上げます。

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご命日を前に、そのお徳をしのびながら、み教えを聞き、本当の生き方を学ぶ、浄土真宗では一番大切な年中行事です。尚、報恩講の開会式にて行う「献香」役のお子様（小学生〜高校生程度）を募集中です！お子様にとつても、ご家族にとつても、一生忘れ得ぬ貴重な経験となり、仏様との尊いご縁をあらためて感じられるはずです。是非この機会にお申し出下さいませ！10月末日切です。 合掌

記

日時 平成28年11月20日 日曜日 午前10時より午後3時過ぎ頃まで  
御講師 季平 博昭師（広島県 尾道市）  
御法中 房総地区本願寺派寺院御住職方

次 第

- 一、 おつとめ（献灯 献花 献香、設仏偈） 午前10時より
- 一、 御俗姓拜読 会館二階
- 一、 御法話 午前10時30分より
- 一、 おと き（各自昼食の用意は要りません） 午前11時40分頃より 会館一階
- 一、 法 要（正信念仏偈） 午後1時より 本 堂
- 一、 御法話 午後2時より 会館二階

### ◎「おみがき」のお知らせ

報恩講に先だち、11月9日（水）午前九時よりお昼過ぎまで本堂にて、お内陣の真鍮製仏具をみがいでいただきます。ご都合のよろしい方は、タオル、雑巾、歯ブラシ、軍手などをお持ち下さい。終了後、軽いお食事をご一緒にいただく予定です。

◎11月16日の法座はありません。

◎会館は木更津税務署脇の道のつき当たり、證誠寺本堂の裏側にあります。

◎駐車場は会館前と山門前にありますが、スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用下さい。

## 證誠寺狸まつりご協力のお願いとご案内

### 證誠寺狸まつり

実行委員長 **高 木 厚 行**  
證誠寺住職 **隆 直 浩**

慈光のもと、お念仏とともに過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、今年も恒例の「證誠寺狸まつり」の季節が近づいてまいりました。この行事は證誠寺橋通り商店街ならびに南町区及び證誠寺門信徒の皆様のご協力により、狸まつり実行委員会を組織し毎年開催しております。ふるさとの伝説、童謡を楽しんで頂きながら、地域活性化の一環として行われる行事で、木更津市、木更津市観光協会、木更津商工会議所、證誠寺の後援によって本年も左記のように開催されます。

ご多用の恐れがございますが、何卒ご協力、ご宣伝方よろしくお願ひ申し上げます。当日は多数の方々をお誘いの上、賑々しくおでかけ下さいますようお願い申し上げます。 合掌

記

- 日時 平成28年10月15日（土） 午後2時〜4時
- チャリティーバザー（午後0時より）  
バザー用品のご寄付にご協力お願い申し上げます。  
（10月の法座「法話会」は21日午後1時より行います）
- 会場 證誠寺本堂及び境内
- 内容

- 1 松本社中による琴の演奏（野口雨情、中山晋平 童謡）
- 2 木更津甚句 證誠寺仏教婦人会（踊り）
- 3 木更津市たぬきばやし保存会（踊り）
- 4 木更津第一小学校児童のみなさんによる  
舞踊「證誠寺の狸ばやし」
- 5 お抹茶の接待
- 6 甘酒の接待



## 「私の仏縁」

千葉市美浜区  
内田 明郎

12年前、実家の母を老人ホームにお世話いただく事になりました。お仏飯を二度もあげる事になった私でしたが、この時から自分で行う事にして父の遺影に向かつて「まだお迎えは早いよ」とつぶやいておりました。今も信心あるとは思えませんが、阿弥陀さんの前に立ち感謝の念で手をあわせる時スーッと阿弥陀さんが胸の内に入ってくる様な

気がします。この事のある年の報恩講の時に、先に往生されたあの勉強家の後藤さんにお話ししたところ「私もそうだよ」とおっしゃられ、この時ご一緒いただきました前住職にもニコニコと話を聞いていただき今はこれでいいのだと納得しております。母はその四年後百二歳で往生いたしました。

私は高校卒業までをお寺の多い福井市で過ごしました。遊び仲間にもお寺の子息がおります。蓮正寺だったか佐々木君、チャンバラ名人で河原の畑で遊んではおじさんに追いかけられました。善林寺の柳さん、品のある美人です。弁舌爽やかで弁論大会では何時も活躍したものです。嫁いで今は大谷さんです。勉強得意の蓑輪君、久野さん等。当時墓地は各寺に有り格好の遊び場でした。

特に夏休みの夜には度胸試しで子供会の上級生が決めた墓に隠した品物を取りに行かされました。昭和23年の福井大震災前後の低学年の頃、祖母の家へ行つては一寸お手伝いして小遣いが貰えて嬉しかったものです。多分この時の記憶でしょうか、ほんやりとしておりますが「ナモホカシゲゴ」(南無不可思議光)と出遇った時は、これだったのかと懐かしい思いをしたものです。

十年位前から、お寺さん探しやら、自分のお墓探しをしておりました。無駄な時間をかなり使つて證誠寺様とのご縁を戴き、定例法座、勉強会、仏社会などの行事に参加させていただいておりましたが、このご縁は必然だった様な気がしてなりません。今後共宜しく御指導お願いいたします。

## 門信徒 勉強会

お寺は死んだ人だけのものでも、死ぬ準備をする人のためだけのものでもありません。この五濁悪世を力強く生き抜く人のためにあるのです。

悲劇のどん底にありながら、その悲劇が真実に遇える縁となつたとき、南無阿弥陀仏の喚び声を聞いていながら、聞こえていない。それが我が身に届いたところを「如是我聞」というのです。

日々の雑事に追われて、明け暮れ過ぎ私に念仏の風が空虚に吹きすぎるか、ハタと足を止めてその風の音に耳を澄ますかによって、人生が一変するのです。

なぜ今なのです。今が今だからです。今が決断の時です。今を除いて一体いつ？そのうちいつかは、今の私はいません。勉強会にて私に出会いましょう。

## 来山 “知性の風” 7月29日



山口県の名門徳山高校の引率教諭と放送部の女生徒8名が、体育祭で毎年踊る「證誠寺の狸ばやし」の踊りの由来を尋ねて来山しました。

かつて山口大学で教鞭をとられた隆高鑑前々住職の関わりは明らかですが、残念ながら戦後まもなくのドサクサで、資料は残されていません。浄土真宗寺院の多い山口県にあっては、高鑑前々住職の同僚か子弟が思い出のよすがとして取り入れたのではないかと推測してみました。

本堂にて、前住職より狸ばやし縁起を聞いて『阿弥陀経』の読誦でしたか、僧侶の西村が2度ならず3度もカムほどのスピードにも拘わらず、「あえいうえおあお」で鍛えられた彼女達の一条乱れぬ奮闘振りに熱いものがこみ上げてきてしまいました。和尚さんと狸にもこんな一面が…の思いが頭をかすめると同時に、前住職の「爽やかですな」の一言に、うだるような暑さの中、清楚な一陣の知性の風がよぎるのを感じたのは私だけではなかったでしょう。

## 證誠寺グラウンドゴルフの会結成



初参加の住職

待望久しきグラウンドゴルフの結成大会が、6月17日君津グラウンドにて、證誠寺門徒30名が参加して行われました。

思いはあるがいざ実行に移すととなかなかというのが世の常ですが、今回證誠寺切っ符の行動派の野沢、保泉、加々見、上野の面々の尽力により、ついに実現される運びとなりました。

お寺で顔を合わせながら、お話しする機会がないことを思うとき、この会が絶好の懇親の場となり、高齢者の集まりゆえに、運動不足の解消に打ってつけと請け合います。

お寺が単なる風景であったり、実在感のない透明な存在であってはなりません。「うちのお寺」「私のお寺」と身近なものとなるよう是非皆さんの参加、協力をお願い致します。